

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
持続可能な発展のための海洋教育と人材育成小委員会（第24期・第1回）
議事要旨（案）

開催日時：平成30年8月30日（木） 13:00～15:00

開催場所：日本学術会議 5-A（1）会議室

出席者：（敬称略・五十音順）川上真哉、川路美沙、塚田昭一、日置光久、山形俊男、
由井蘭健

欠席者：（敬称略・五十音順）田中義靖、松村英治

オブザーバー：氷見山幸夫

*委員8名中6名の出席があり会議は成立した。

議題等

1. 第1回の会議であり、学校等における教育・研究活動を含めた自己紹介があった。

2. 委員長選任

日置光久委員（東京大学）が選任された。

3. 役員承認

副委員長として塚田昭一委員、幹事として川路美沙委員、川上真哉委員が委員長より指名され、承認された。

4. 委員長就任挨拶

フューチャー・アース, ESD, SDGs の理念を踏まえ海洋教育の視点から、学校現場で日々実践されている授業の改善に資する海洋教育を目指す。

・広く海洋教育を捉え、それぞれの教科等の特質を踏まえ教科等の教育の充実、授業の改善を期したい。

・再来年度の9月までの2年間のあいだに勉強会を含めた検討を重ね、カリキュラムを作成し、実際の授業を行い評価ができればと思う。

・委員は現在8名であるが、校種、教科等のバランスを考え、今後増員していきたい。

・海洋教育促進研究センターとの連携も考えられる。

5. フューチャー・アースについて（山形委員）

・ICSU 国際科学会議と ISSC 国際社会科学協議会は ISC 国際学術会議に統合された。

- ・ 人類の活動が地球全体の活動と同規模になってきた。
- ・ 1992 年からリオサミットなどを経て現在に至る。
- ・ 総合地球環境学研究所が作成したパンフレットを元に説明。
- ・ 人類世、人新世を 1950 年から始まったと考えるか議論が進んでいる。
- ・ 予測と予想、気候変動と気候変化は違うので使い分けなければいけないが、外交で使ってしまった言葉なのでなかなか変更がきかない。
- ・ 人口の増加と絶滅種の数がホッケーカーブを描いており、危機的な状況。ティッピング・ポイント。
- ・ 里海里山の概念で生産的な生態系を維持していきたい。
- ・ 知的好奇心のみに基づいた研究だけでなく、課題解決型の研究も必要とされている。
- ・ 学際的から超学際的なアプローチが求められている。
- ・ 3つの課題（知、開発、社会の転換）の研究と、その統合を目指している。
知の統合と行動が重要。
- ・ フューチャー・アースの哲学を理解し、具体的な行動にしていきたい。
- ・ フィリピンなど国外とも理解し合い、協力していきたい。

（氷見山オブザーバー）

・ 先生と研究者を結ぶことが大切である。先生方、教科教育研究者に役立つ資料があるとよい。

6. 海洋教育について（日置委員長）

- ・ 海に親しみ、海を知り、海を活用し、うみをまもる海洋教育の必要性を訴えたい。
- ・ 学習指導要領の改訂期、実施期でもあり、2030年を見据えて新しい教育を模索していく必要がある。その一つの重要なものとして海洋教育が考えられる。
- ・ 各教科等の目標と内容を踏まえて海洋教育を進めるにはどうしたらよいか考えていきたい。